



© Wienfoto, wien

## 秋野暢子 ピースメッセンジャー

大阪ミナミの呉服屋の末娘として生まれる。小学校の学芸会でエンツの役をもらい初舞台を踏んだ事がきっかけになり演劇の道に進むことに、中学・高校と演劇部在籍、1974年NHK銀河テレビ小説「おおさか 三月(みつき)・三年(さんねん)」のウェイトレス役でデビュー。1975年NHK朝のテレビ小説「おはようさん」の主役織村鮎子役に抜擢される。TBSドラマ「赤い運命」では山口百恵と共演し、インパクトの強い役を好演。1986年ヘラルド映画「片翼だけの天使」ではキネマ旬報主演女優賞を受賞、以降CD発売、ダイエット本発売と多方面に活躍の場を広げる。イベントや講演会、バラエティ番組に積極的に出演し活動の幅を広げており、元祖カープ女子として、広島東洋カープを応援し続けている。

## 柳澤寿男 指揮者・バルカン室内管弦楽団音楽監督

旧ユーゴを中心に活動する日本人指揮者として知られる。2005-2007年、マケドニア旧ユーゴ国立歌劇場首席指揮者、2007年、国連コンボ暫定行政ミッション統治下のコンゴフィル管首席指揮者に就任。同時にサントペテルウク響、ブラハ響、フラツツクワロヴェ響、西ボヘミア響、ベオグラード国立歌劇場、セルビア国立放送響、サラエボフィル、アルバニア国立放送響などに客演。2007年、バルカン半島(特に旧ユーゴ)の民族共栄を願ってバルカン室内管弦楽団(以下BCO)を設立。2009年、コンゴ北部ミトロヴィツァにおいて、国連、軍隊、警察などの協力を得て、コンゴ紛争後初となる民族混成オーケストラによるコンサートを実現。コンサートの様子は日本の高等学校教科書「世界史」(実教出版)にも記載されている。2010年にはニューヨーク国連総会に伴うイベント「バルカン・リーダース・サミット」で演奏を披露。2011年、国連とともに教育を受けたいロマ民族の子供たちとのコンサートを開催。2013年8月の新宿駅東口モト4番街「第九フラッシュモブ」からWorld Peace Concertプロジェクトを始動。2015年から年に一度World Peace Concertを世界各地で開催。これまでにベオグラード(コラツホール)、ジュネーブ(ヴィクトリアホール、国連欧州本部総会議場)、ウィーン(コンツェルトハウス)などでコンサートを開催し、諏訪内品子氏(ヴァイオリン)、清水和音氏(ピアノ)、ペーテル・ヤブロンスキ氏(ピアノ)、バスカル・ロジェ氏(ピアノ)等と協演。また2016年来日時に共演したミュージシャン玉置浩二氏が、柳澤寿男とBCOの活動に共鳴し、尊き命あるものとの共存、平和への祈りを込めて「歡喜の歌」を作曲。BCOは旧ユーゴ崩壊後の断絶された文化圏の貴重な架け橋として存在している。柳澤寿男とBCOの活動は、NHK総合テレビ「おはよう日本(特集～和聲へのハーモニー)」、Eテレ「Switchインタビュー」連日 石井竜也×柳澤寿男、NHKBS1「BS特集～響け 内戦の記憶を越えて」、テレビ東京「世界ナゼそこに日本人」、BSジャパン「戦場に音楽の架け橋を～指揮者柳澤寿男の挑戦(第6回日本放送文化大賞グランプリ受賞)」など数多くのメディアで報道されている。国内では新日本フィル、日本フィル、東京フィル、東京都響、東京響、東京シテイル、札幌響、仙台フィル、群馬響、名古屋フィル、九州響、大阪フィル、日本センチュリー響、大阪響、関西フィル、兵庫芸術文化センターフィル、九州響、アンサンブル金沢などに客演。2015年より東日本大震災復興支援のひとつとして阪本一氏監督による東北ユースオーケストラの指揮者を務めている。また同年より日本の音楽シーンをリードするポプミュージシャンとフルオーケストラによる融合プロジェクト、ビルボードクラシックス Premium Symphonic Concertの指揮者を務め、玉置浩二、八神純子、石井竜也、渡辺英里、May. J、吉里、平原綾香、中島美嘉、小柳ゆき、藤井フミヤ、タケカワユキヒデの各氏等と共演。著書に「バルカンから響け! 歡喜の歌(音楽巻)」。現在、バルカン室内管弦楽団音楽監督、コンゴフィルハーモニー管首席指揮者。

## バルカン室内管弦楽団

※バルカン室内管弦楽団は弦楽奏者とティンパニー奏者で構成されているため、この度はバルカン室内管弦楽団に加え、楽器者・一部打楽器奏者は日本のプロフェッショナル演奏家によって編成されます。

バルカン室内管弦楽団(以下BCO)は、2007年に日本人指揮者柳澤寿男によってバルカン半島(特に旧ユーゴ)の民族共栄を願って設立。2009年5月、コンゴ北部ミトロヴィツァにおいて、UNDP国連開発計画コンボ、ABD特定対象地域プログラム、UNKT国連コンボチーム、KFOR国際安全保障部隊、コンゴ警察などの協力のもと、コンゴ紛争後初となる、民族混成オーケストラによる歴史的コンサートを実現。2010年、ニューヨーク国連総会に伴うイベント「バルカン・リーダース・サミット2010」に招かれ、バルカン各国大統領・首相をまえに演奏を披露。2011年、ウィーン楽友協会ホールでの公演を実現。同年11月、UNDP国連開発計画アルバニアの協力により、ロマの子供たちとの共演を実現。このほか2009年、2012年、2014年には来日公演も果たしている。2015年にはベオグラードに於いて、World Peace Concertをスタートし、ヴァイオリニスト諏訪内品子氏と協演。「世界市民」をメッセージとしたWorld Peace Concertは一年に一度世界各地で開催されている。2016年にはジュネーブにおいて、国連欧州本部公演(国連欧州本部、在ジュネーブ日本政府代表部主催)とヴィクトリアホールにおいてピアニスト、ペーテル・ヤブロンスキ氏と協演。2017年は設立10周年を迎え、ウィーン・コンツェルトハウスにおいてピアニスト、バスカル・ロジェ氏と協演。バルカン室内管弦楽団は旧ユーゴ崩壊後の断絶された文化圏の貴重な橋渡しともなっており、旧ユーゴ中南部のすべての主要オーケストラから参加する首席奏者、またオーストリアやスイスなどの名オーケストラで活躍するバルカン半島出身の奏者も合流し、高い水準を持ったオーケストラとして急成長を続けている。楽団員にはこれまで、セルビア人、アルバニア人、マケドニア人、ボスニア人、クロアチア人、スロベニア人、ギリシャ人、ブルガリア人、ルーマニア人、トルコ人などが参加。またベオグラード、スコピエ、ティラナ、プリシュティナ、ミトロヴィツァ、ズベチナ、サラエボ、ウィーン、ジュネーブ、ニューヨーク、東京、名古屋、岡谷、松本、金沢、京都などでのコンサートを実現している。いかなる国にも本拠地を置かないバルカン室内管弦楽団は、音楽が共通の言語、共通の感覚として人々の心を繋いでいくことを強く願っている。

## 名古屋市民コーラス

1959年発足。1994年常任指揮者に長谷川二氏を迎えてからオーケストラ付きの合唱曲に取り組んでいる。団員は会社員、公務員、主婦、学生等多様なキャリアと各世代にわたる年齢層から成り、団員数は常時200名を維持している。特定の音楽監督をおかず、選曲から企画運営まですべて団員の話し合いで進められ、じつくり一年かけて密度の高い練習を重ね演奏会に臨んでいる。2013年の定期演奏会で柳澤寿男氏の指揮によりヴェルディのオペラ「オプク」を上演し、その縁で柳澤氏が始める「世界平和コンサートへの道」プロジェクトに参画し、2014年にバルカン室内管弦楽団日本公演ツアーのうち名古屋公演を共催している。2019年には創立60周年となり、2月にメンデルスゾーン「エリヤ」、11月にグラムス「ドイツクイエム」の演奏会を予定している。

## 【バルカン室内管弦楽団日本公演2018を応援する会】 50音順・敬称略

### 逢沢一郎

日本セルビア友好議員連盟会長

### 明石 康

公益財団法人国際文化会館理事長

### 近衛忠輝

日本赤十字社社長

### 近藤哲生

国連開発計画駐日代表

### 塩崎恭久

日本スロヴェニア友好議員連盟会長

### 柴 宣弘

東京大学名誉教授・城西国際大学特任教授

### 角崎悦子

公益財団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン理事

### 角崎利夫

元在セルビア兼モンテネグロ日本国特命全權大使

### 徳川家広

徳川記念財団理事・作家・徳川宗家19代にあたる

### 水野 清

前在東京マケドニア名誉総領事

### 美根慶樹

元在ユーゴスラヴィア日本国特命全權大使